

委員質問・意見書

(11月9日) 受付分

(石田委員)

● 新潟県 に対する 質問

- ・モニタリングポストについて

普段、モニタリングポストに対して、不信とか疑問を感じた事はなかったのですが、10月に県の方が竹内委員の要望・意見のまとめの中で「公表できるものは、公表してます」と説明しました。11月(の定例会時)にお聞きしたかったのですが、モニタリングの結果に対して、県としては公表できないものも持っているということでしょうか。

そうすると、私が全面的に信じていたモニタリングポストに対して考え方を変えなければならぬ。安心できるような解答をお聞きします。

(11月14日) 受付分

(竹内委員)

● 東京電力HD に対する 質問・要望

10月11月の2回の定例会で、広域避難計画に関する意見交換が行われ、主に県市村に対して避難計画の質問が多かったのですが、過酷事故の際に無事避難できるかどうかは、東京電力の発電所内の動きと密接に関連していることを改めて実感しました。「別紙「原子力災害対策充実に向けた考え方」に係る事業者の取り組みについて」の資料についての質問と要望です。

①スライド13について、事故収束活動の緊急時においては被ばくを伴う作業になることも予測されますが、発電所職員、協力企業職員・プラントメーカー職員、他電力職員についてどのような形で危険な作業に携わる同意を取る予定なのか教えてください。（質問）

②スライド27について、津波でがれきが残されたり道路が陥没したりした場合、高台の車両置き場から必要な車両を移動して、空冷式ガスタービン発電機車が機能するまでどのくらいの時間が必要か教えてください。（質問）

③スライド45「1. 当社から国・自治体への情報連絡（福島第二、柏崎刈羽）」について、発電所所内の通報連絡責任者から県・市・村には直接連絡をいただけるのに、国（内閣府・原子力規制庁）へは本社を通すのはなぜですか？本社経由であることで福島原発事故のように国の判断や対応が遅れたり、現場の情報が伝わらなかつたりするのではないかと心配です。（質問）

④住民の避難に対する原子力事業者の役割などについても様々に考えられているようであり、他原子力事業者からの支援も充実してきているようですが、配布のみだった「別紙「原子力災害対策充実に向けた考え方」に係る事業者の取り組みについて」の資料をもとに、今までとどう変わったのかを説明をしていただきたい。（要望）

地域の会 質問・意見書

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会 委員 宮崎孝司

東京電力に質問

2017,11,14

1.代替循環冷却系(新規設置部)について

(1) どうして「代替」と言うのですか。

ABWRには、もともと循環冷却系として「残留熱除去系 RCIC」がいくつもついていました。今回この1つの冷却系ポンプを3台に増設するものと図面から理解しました。それなら、「循環冷却系増設」とか「強化」とか言うものかと思います。

素人なりに考察しました。配管工事で「代替」と言っていますから、他のポンプと兼用したか、他の系統を廃止して、ポンプ増設を図ったかしたのではないか。「兼用」とか「廃止」となった系統が弱体化したり、複雑化したりしないのか不安です。よく説明してください。

(2) 原子炉には非常用炉心冷却系として、「残留熱除去系 RCIC」「高压炉心注水系 HPCF」「HPCF/ADS」とあります。「残留熱除去系 RCIC」だけを強化・対策したのはなぜですか。

(3) 6, 7号機は、ABWRです。ABWRの説明書(パンフレット、2001.9改良型BWRの概要)の図には、電源がなくても働くIC(非常用復水器)が見当たりません。「残留熱除去系 RCIC」強化も重要ですが、電源を必要としない圧力容器冷却系強化が求められるのではありませんか。

2. H29年8月21日規制庁提出資料(参考)中央油帯背斜南部の図について伺います。

東電は、この図の中で、H面堆積物とは「高位段丘形成層」と言うことです。東電の「柏崎平野周辺の地層の年代について：H29年4月27日」P10の図によればMIS7に堆積し、岩盤に残ったものと言うことになり、低い位置の岩盤上の堆積物が古安田層に当たり、再び海面上昇によって古安田層の上に安田層が形成されたと説明しています。高位段丘層と古安田層の形成年代は同じMIS10～7と理解しました。ですが、(参考)中央油帯背斜南部の図には、H面堆積物の周囲が古安田層に塗られています。かつて、「H27年6月19日：敷地周辺陸域の地質・地質構造に関するコメント回答」の平野南部方面の図には、H面堆積物と古安田層がきちんと分けられています。(参考)中央油帯背斜南部の図のH面堆積物周辺のH面堆積物と古安田層は何を持って区切ったのでしょうか。教えてください。

3. H29年8月21日規制庁提出資料 P30:古安田層の年代に関する評価(中子軽石層の年代評価)の柱状図にある、GHo:緑色普通角閃石と Cum カミングトン閃石は別々の火山灰と言うことですか。教えてください。

以上

地域の会 質問・意見書

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会 委員 宮崎孝司

新潟県に質問

2017,11,14

1.原子力災害時の周知について

国は、北朝鮮のミサイル飛来に対して、Jアラートで北海道から新潟まで広範囲に同時警報音を発しています。原子力災害も広域にかかわる災害です。Jアラートと同じく広域に同時周知が必要と思います。7月の地域の会で、原発事故時にサイレンを鳴らすのかと聞いたところ、柏崎市は、サイレンパターはあるが使わない、刈羽村は消防訓練で使っている音を流すと答えています。市と村は近接しているため、お互いの防災無線の音声が聞こえます。市村の周知方法が違くと住民は混乱します。

質問（1）県は県民に事故発生をどのように周知しようと考えていますか。

（2）3段階に変わる緊急事態を周知徹底するにはどのようにしますか。

原発事故では原発の状況によって、EAL1警戒事態、EAL2施設敷地緊急事態、EAL3全面緊急事態と3段階に変わります。

段階それぞれによって周知事項が変わります。しかも長い説明になることが予想されます。EAL1警戒事態の時でさえ、①原発の状況②緊急事態の区分③対策本部の名称と場所④避難者への指示：それも、a 帰宅指示 b 施設の要避難者への準備要請 c 学校や保育園への子どもを引き取る指示等々、相当長々説明が流されると思います。

これが次の緊急事態に変わった場合、又違った説明が長々続くように思います。市民にとって、どの段階の指示が出されているのかわからなくなるのではありませんか。その点、緊急事態区分によって、周知「音」を変えるのも必要かと考えますがいかがでしょうか。

2. 燕市でミサイル攻撃に備えた避難訓練が行われましたが、柏崎刈羽原発と関連してどのような訓練が行われたのでしょうか。

報道によると燕市のUPZ圏での訓練と聞きました。柏崎刈羽原発がミサイルに攻撃されることを想定したとも聞きました。TVの映像には、作業中の方が

土管や道路下の側溝に身を隠す姿がありましたが、放射性物質の拡散に対応した訓練があったのでしょうか。また、ミサイルに原発が攻撃されたのであれば、いきなり EAL3 全面緊急事態に陥ったことになりますが、訓練はどのようにされたのでしょうか。全国で初めてのことだったと聞きますが、少し詳しく聞かせてください。

以上